

観光地における P&BR 駐車場の利用特性に関する基礎的分析
～彦根城での社会実験をケーススタディとして～

名城大学 学生会員 ○佐田 大幸
名城大学 正会員 松本 幸正
玉野総合コンサルタント株式会社 正会員 澤田 基弘
玉野総合コンサルタント株式会社 非会員 小倉 俊臣

1. はじめに

人気の観光地では、乗用車を利用した来訪客の増加による道路交通渋滞が問題になっている。目的地までの所要時間の増大や交通事故、観光地の環境悪化の原因となる可能性があることから、観光地の魅力低下につながっていると考えられる。

交通渋滞の緩和には、車線数の拡張などのハード面による対処法も考えられるが、観光地では歴史的風致維持の観点などから困難な場合が多い。そのため、パーク・アンド・バスライド(以降、P&BR と表記)のような交通施策を実施することが望ましい。そこで本研究では、実証実験が実施された彦根城を対象として P&BR 駐車場の利用者特性を明らかにし、交通渋滞解消のための P&BR の利用促進策の検討に資する基礎資料を得ることを目的とする。

2. 彦根城 P&BR 実証実験の概要

彦根城周辺は幅員の狭い道路が多く、名神高速道路の「彦根 IC」から彦根城までの道路渋滞は激しく、地元住民の生活にも支障を来している。そのため彦根市では、交通渋滞緩和のための交通施策として「彦根 IC」を下りてすぐに約 150 台の駐車場(以降、インター前駐車場と表記)を設け、彦根城周辺までバスで移動する P&BR の社会実験を春と秋に行っている。令和 3 年秋の土日には、新型コロナウイルス予防対策のもとで社会実験が実施され、延べ 6 日間で 165 台がインター前駐車場を利用した。

彦根城周辺の駐車場は、令和 3 年秋の実験で図-1 に示すように桜場(70 台)、大手前(25 台)、京橋口(160 台)、また、混雑時に開設される臨時駐車場(文化財駐車場(600 台))が利用されたが(二の丸(40 台)はイベント会場のため休止)、満車になる状況ではなかった。

彦根城周辺には、図-1 に示すように、博物館、玄宮園や、夢京橋キャスルロードといった商店街などがあり観光客の立寄先になっている。

表-1 各駐車場の回答数と特徴

駐車場	回収数	特徴
京橋口駐車場	66 件	お堀の外、利用者が多い
城内駐車場(桜場、文化財、大手前)	64 件	お堀の内側 彦根城正門まで 500m 以内
インター前駐車場	20 件	P&BR 利用者専用駐車場



図-1 城内各駐車場の各観光地の位置図

3. P&BR 実施時の駐車場利用の分析

3.1 利用者アンケートの概要

本研究では、彦根市の協力のもと、インター前駐車場とお城周辺駐車場(以下、城内駐車場と表記)利用者を対象にアンケートを実施した。各駐車場でお願いチラシをドライバーと思われる人にランダムに配布し、そこに表示された QR コードから被験者が WEB アンケートにアクセスし、観光後に回答するよう依頼した。表-1 に、各駐車場でのアンケートの回収数と特徴を示す。インター前と京橋口は、他の駐車場とは特徴を異にしていることがわかる。

3.2 利用者アンケートの分析方法

ここでは、P&BR 利用者の駐車場選択特性を把握するため、数量化理論第 2 類を用いる。駐車場を停めた過程についてもアンケートで聞いており、駐車場ごとの停めるまでの過程の差異をコレスポンデンス分析で明らかにする。

3.3 駐車場選択特性の分析結果

「インター前駐車場」、「城内駐車場」のいずれかの停めた駐車場を外的基準として数量化理論第2類を用いて分析した。表-2 に用いた説明変数と分析結果を示す。全体の相関比は 0.22 となり、判別率的中率はインター前駐車場で 80.0%、城内駐車場で 77.7%になった。第1軸では、インター前駐車場の重心がプラス、城内駐車場がマイナスとなった。

説明変数のうち「経由経路」は、図-2 に示すように「国道306号線」、「国道8号線」、「彦根IC」、「その他」に分類した。訪問予定観光地については、「彦根城天守閣」、「博物館」、「商店街」の3つにグループ化し、「訪問する」「訪問しない」で分類する。

レンジの値より、駐車場選択に大きく影響する要因は、「訪問予定観光時間」「運転頻度」であることが分かる。インター前駐車場は、訪問予定観光時間が長いほど、運転頻度が週4、5回または週に1回以下、来訪回数が多いほど、経由経路が国道306号線、商店街を訪問する予定の場合に選ばれやすいことが分かる。これらのことからインター前駐車場の利用促進策として、長時間駐車に対する割引や観光施設・協賛店舗利用特典の制度導入と、観光客の流入経路として利用が多い彦根ICからの車両を誘導するため、電光掲示板等のわかりやすい案内看板をICからの分岐付近に設置することが効果的であると思われる。

3.4 駐車するまでの過程の分析結果

駐車場を「インター前駐車場」、「京橋口駐車場」、「その他城内駐車場」と分け、駐車場に停めるまでの過程についてコレスポンデンス分析を行った。累積寄与率は、第1軸で0.59であった。

図-3 に分析結果を示す。京橋口駐車場とインター前駐車場では「はじめから停めようと思っていた」という傾向があり、インター前駐車場と城内駐車場では「案内看板に従って停めた」という傾向がある。また、「カーナビや駐車場探索アプリなどで見つけた」は、インター前駐車場では傾向が見られない。これらのことから、P&BR駐車場の利用をさらに増やすためには、カーナビや駐車場探索アプリによる案内を強化することが効果的であると思われる。

4. おわりに

本研究では、彦根城で社会実験が行われた P&BR インター前駐車場と城内駐車場の利用者を対象に

表-2 数量化理論第2類の分析結果

説明変数		スコア	レンジ	偏相関係数
年齢層	30歳代以下	0.240	0.537	0.118
	40歳代	0.090		
	50歳代	0.271		
	60歳代以上	0.265		
運転頻度	週に1回以下	0.276	1.452	0.218
	週2,3回	0.324		
	週4,5回	1.128		
	週に6回以上	0.194		
同伴人数	2人以下	0.305	0.832	0.174
	3人	0.527		
	4人以上	0.112		
来訪回数	0回	0.460	0.923	0.173
	1,2回	0.032		
	3,4回	0.463		
	5回以上	0.355		
訪問予定観光地数	1箇所	-0.036	0.782	0.132
	2箇所	0.373		
	3箇所	0.409		
	4か所以上	-0.193		
訪問予定観光時間	2時間未満	0.746	1.814	0.295
	2時間以上3時間未満	0.375		
	3時間以上4時間未満	1.069		
	4時間以上	0.542		
経由経路	その他	0.334	0.742	0.094
	国道306号	0.408		
	国道8号	0.049		
	彦根IC	0.060		
彦根城天守閣	訪問しない	-0.062	0.076	0.013
	訪問する	0.013		
博物館	訪問しない	-0.007	0.019	0.004
	訪問する	0.012		
商店街	訪問しない	0.207	0.384	0.095
	訪問する	0.176		



図-2 各経由経路の位置図

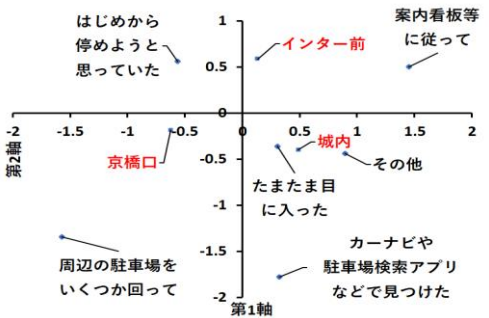


図-3 コレスポンデンス分析結果

WEB アンケートを実施し、その特性を明らかにすることにより、彦根IC 付近で看板を設置することや長時間駐車に対する割引の導入などが P&BR 利用のさらなる増加につながる可能性があることを明らかにした。今後は、P&BR 利用の定量的な効果把握を行う必要がある。

謝辞

本研究は彦根市ならびに彦根市パーク・アンド・バスライド実施協議会の協力のもと行うことができた。ここに記して、謝意を表す。